

府食第 575 号
平成 16 年 5 月 20 日

厚生労働大臣
坂口 力 殿

食品安全委員会
委員長 寺田 雅昭



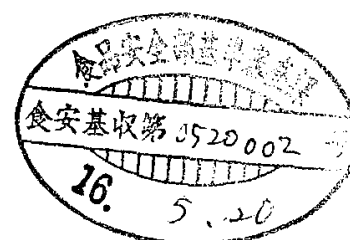
ボスカリドに係る食品健康影響評価の結果の通知について

平成 15 年 11 月 17 日付け厚生労働省発食安第 1117002 号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会委員長に意見を求められたボスカリドに係る食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので通知します。

なお、農薬専門調査会において各種試験結果概要及び評価結果をまとめた評価書を添付します。

記

ボスカリドの一日摂取許容量を 0.044mg/kg 体重/日と設定する。



農薬評価書

ボスカリド

2004年5月19日

食品安全委員会農薬専門調査会

<検討の経緯>

- 2002年 8月 1日 農薬登録申請
2003年 11月 17日 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
2003年 11月 27日 食品安全委員会第21回会合（要請事項説明）
2003年 12月 24日 農薬専門調査会第4回会合
2004年 3月 22日 追加資料受理
2004年 4月 7日 農薬専門調査会第9回会合
2004年 4月 15日 食品安全委員会第41回会合（報告）
2004年 4月 15日より2004年 5月 12日 国民からの意見聴取
2004年 5月 19日 農薬専門調査会座長より食品安全委員会委員長へ報告

<食品安全委員会委員>

- 寺田雅昭（委員長）
寺尾允男（委員長代理）
小泉直子
坂本元子
中村靖彦
本間清一
見上彪

<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員>

- 鈴木勝士（座長）
廣瀬雅雄（座長代理）
石井康雄
江馬 眞
太田敏博
小澤正吾
高木篤也
武田明治
津田洋幸
出川雅邦
長尾哲二
林 眞
平塚 明
吉田 緑

要 約

アニリド系化合物の殺菌剤である「ボスカリド」(IUPAC: 2-クロロ-N-(4'-クロロビフェニル-2-イル)ニコチンアミド) について、各種毒性試験成績等を評価して、一日摂取許容量 (ADI) を 0.044mg/kg 体重/日と設定した。

評価に供した試験成績は、動物代謝 (ラット)、植物代謝 (レタス、ぶどう、いんげんまめ)、土壌代謝、水中光分解、作物残留、土壌残留、急性毒性 (ラット、マウス)、亜急性毒性 (マウス、ラット、イヌ)、慢性毒性 (ラット、イヌ)、発がん性 (マウス、ラット)、2 世代繁殖 (ラット)、発生毒性 (ラット、ウサギ)、遺伝毒性試験等である。

試験結果から、催奇形性、遺伝毒性は認められなかった。発がん性試験では、有意差がないもののラットの甲状腺で腫瘍が認められたが、発生機序は非遺伝毒性メカニズムであり、本剤の評価にあたり閾値を設定することは可能であると考えられる。

各試験の無毒性量の最小値はラットを用いた慢性毒性試験の 4.4mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.044mg/kg 体重/日を ADI とした。

I. 評価対象農薬の概要

1. 用途

殺菌剤

2. 有効成分の一般名

和名：ボスカリド

英名：boscalid (ISO 名)

3. 化学名

IUPAC

和名：2-クロロ-N-(4'-クロロビフェニル-2-イル)ニコチンアミド

英名：2-chloro-N-(4'-chlorobiphenyl-2-yl)nicotinamide

CAS (No.188425-85-6)

和名：2-クロロ-N-(4'-クロロ[1,1'-ビフェニル]-2-イル)-3-ピリジンカルボキシアミド

英名：2-chloro-N-(4'-chloro[1,1'-biphenyl]-2-yl)-3-pyridinecarboxamide

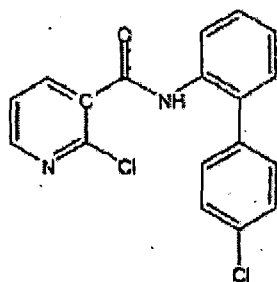
4. 分子式

$C_{18}H_{12}Cl_2N_2O$

5. 分子量

343.21

6. 構造式



7. 開発の経緯

ボスカリドはアニリド系化合物の殺菌剤であり、ミトコンドリア内膜のコハク酸脱水素酵素系複合体の電子伝達を阻害することで灰色かび病、菌核病に効果がある。すでに、米国、カナダ、韓国、ドイツ、英国で登録されている。

ボスカリドは2002年8月にBASFアグロ株式会社(以下「申請者」とする。)より農薬取締法に基づく登録申請がなされている。(参照1)